育てあい、育ちあう

広報　NO４

わかば

２０２１年春号

２０２１年３月２５日発行

社会福祉法人わかば会

盛岡市西松園３丁目１９－６
発行責任者　鈴木浩太郎
☎：０１９－６６１－３１０３
fax：０１９－６６２－５１２９
https//www.wakaba-kai.or.jp

法人の理念

＊ 社会福祉法人わかば会は、子どもの人権を尊重し保護者と協力しながらその健やかな成長のために尽くすとともに、保護者が安心して子どもを預け働ける環境づくりに努めます。
＊ 未来の主人公となる子ども達の権利を尊重し、豊かな乳幼児期を保障することを基本とし、保護者の皆様と一緒に保育を創っていくことを大切にしてまいります。
＊ 子どもが本来持っている能力を引出し、豊かな感性を育み、一人ひとりが仲間の中でゆっくりじっくりと自分を育てていけるような保育環境づくりに努めます。
＊ 子育て支援や地域福祉の向上を目指し、地域の子育ての拠点となるよう努めます。

法人運営施設

■わかば保育園　■本宮保育園　■うえだ保育園
■北松園風の子保育園
■がんちゃんすくすく保育園
■宇宙学童クラブ　■ 第二宇宙学童クラブ

わかば保育園卒園式二部
卒園児による「鬼剣舞」
先生が打ち鳴らす太鼓と笛に合わせて豪快に演じました。

卒園に寄せて

今年も、わかば会からたくさんの卒園児が巣立っていきます。

卒園期になると各園では、「豊年太鼓」「鬼剣舞」「竹踊り」などの音色が響きます。生活発表会では心をひとつにして目標に向かい成し遂げた喜び、その余韻を残しつつ最後の「保育のまとめ」に入ります。

どの子も真剣な顔で精いっぱい、今までにため込んできた力を発揮すべく全身全霊で取り組んでいる姿に心を打たれます。

小さい頃から、体にしみこませた太鼓のリズムや民舞の踊り、本物の扇子を手に勇ましく舞う自信に満ちた顔。その勇士を後輩たちがしっかりと見つめ、その文化を受け継いでいきます。

保育園のたいよう組は子どもたちの憧れです。たいよう組がすることをよく見てすぐに再現します。鬼剣舞をするとその細部まで再現し、保育士の声掛けまでしっかり取り込んでいます。卒園期に歌う歌も、情感たっぷりに歌います。その姿は、子どもたちを惹きつけ本物の文化に触れることの意味を私たちに教えてくれています。

子どもたちは、仲間の中で本音を出し、ぶつかり合いトラブルで気持ちのコントロールがつかなかったりします。そんなとき、異年齢の中だと、穏やかな自分を取り戻し、とてもやさしく、小さい子の世話をやいたり、語りかけたり、遊んでくれたりします。

保育園という大きな「お家」の中で、自分の居場所を見つけ、自分の力を発揮して頼りにされる存在として育ってきました。大人も子どもも共に対等平等の関係で育ちあい、互いに学び合い、権利の主体者としてこれからの未来を生きてほしいと思います。子どもたちが大切にされ、心地よい生活を送り自分らしく生きられる社会でありたいと願います。

どの子もたくさんの夢を語り、仲間と一緒に自分の夢に向かって歩んでください。いつも応援しています。

わかば保育園園長　山蔭悦子

せいかつ発表会

わかばの保育で大切にしているリズム運動

どの子にも〝全面発達を〟と願い、発達の道筋を踏まえながら、ハイハイの獲得、両足跳び、スキップ、ギャロップ等各年齢で課題を持って取り組んでいます。

０歳児は、保育者の歌声に合わせながらトンボやハイシをまねっこ。保育者が歌を口ずさむと「モウイッカイ！」と、指を立てて何度もリクエストしながら楽しんでいます。

１～３歳児は、３歳児がリードし、はりきって身体を動かし友だちや異年齢でふれあいながら楽しんでいます。ピアノの音が聞こえるとすぐにホールに駆けつけ、大きいクラスの子のリズムを憧れのまなざしで見学し、まねっこしています。

４・５歳児は、週１～２回のリズムで身体を動かし、集団で気持ちをあわせながら取り組んでいます。

生活発表会では、そんな日常のリズムを披露しました。

２・３歳児は、保護者が見ているのではりきり、「カメ」「トンボ」など自信を持って笑顔で発表しました。

４・５歳児は、自分の番になるとリズムの歌も自分たちで歌いながら、積極的に身体を動かします。

５歳児は、つま先から指先まで神経を集中させ、より美しく！と意識し、細やかな動きまで自信をもって表現しました。最後はちょうちょうで美しく羽ばたきました。

（北松園風の子保育園）

うえだ保育園４歳児「さるとかに」

本宮保育園リズムの会　４歳児「カメ」

劇ごっこ・劇あそび・劇づくり

生活発表会は、毎日のふれあい遊びや先生たちに読んでもらう絵本・行事等の真似っこ遊びやごっこ遊びなど、日々の遊びや生活の積み重ねの中で楽しんでいる姿や成長を保護者の方々と一緒に喜び合える場です。

小さい子たちは普段楽しんでいる遊びの延長で保育者や友達と一緒に、リズムやわらべ歌を楽しみ、日常の出会いの中で大好きになったパトロール隊やこぶた・おおかみになったつもりでの掛け合いを見せてくれました。

大きいクラスは、大好きな絵本や物語の中から子ども達の話し合いで題材を決めます。役の面白さや登場人物の気持ちを知り、役になりきって演じる姿に、保護者の皆さんも笑ったり涙を流したりしながら子ども達の頑張りに大きな拍手を送りました。

行事を終えた子どもたちは、ひと回り大きくなった喜びとともに、進級を心待ちにしながら毎日を過ごしています。

（うえだ保育園）

風の子保育園５才児「お城の仲間」

わかば保育園３歳児「３枚のお札」

うえだ保育園０才児「ハイハイだよ～」

風の子保育園２才児おむすびころりん
「ねずみさんいれて～」

がんちゃんすくすく保育園

一年を振り返って、岩手大学の構内には自然がたくさんあり、四季折々の変化を見つけながら歩く「いいもの探し」のお散歩が日課です。

劇ごっこ「おおさむこさむ」

季節の草花や木の実など、いつも小さい子どもたちの手やポケットはたくさんの〝お土産〟でいっぱいです。

「がんちゃん」が開園してから3年がたちました。コロナ禍ということもあり、感染対策をしっかり行いながら岩手大学の次世代育成サポーターさんのふれあい活動や、幼児教育に興味がある教育学部の学生を受け入れての保育体験もありました。

今年の冬は記録的な大雪となり広い敷地内は雪かきが追い付かず、大学のサークル活動をしている団体の中から「野鳥の会」のメンバーが、がんちゃんの〝スノーバスターズ〟として活動してくれました。

これからも様々な人々に支えてもらい見守られながら、小さな子どもたちがより安心安全に過ごしていけるような環境の中で保育を充実させていきたいと思っています。

オープニング「コンコンクシャンのうた」

次世代育成
サポーターさんと

住所　上田３－18－14
☎　019-601-3822

北松園風の子保育園　竹おどり

もうすぐ1年生
卒園式

２０２０年度の卒園児
わかば保育園　　１５人
北松園風の子保育園　１２人
本宮保育園　　２４人
うえだ保育園　　１９人

卒園おめでとう

今年度は、コロナ禍の中で式の内容を一部短縮しながらも、子どもたちがより輝ける内容に取り組みました。

一部(卒園証書授与)は、子どもたちも職員も正装しておめかし、少し緊張気味の子どもたちは、生活発表会で「ふき(劇)」を演じたこともあり、胸にフキノトウをイメージしたコサージュをつけて気持ちを一つにしての入場です。

卒園証書授与では、担任から名前を呼ばれた子どもたちはしっかりと返事をし、園長先生から証書をいただきました。担任は、それぞれ子どもたちの園生活での輝いたエピソードを紹介。ピアノ演奏が流れる中、証書を高らかに掲げ、少しはにかみながら誇らしげにお父さん、お母さんに手渡します。

保護者、職員にとっては、大きく成長した子どもたちの姿とともに、愛おしく感じられる瞬間でもあります。

「呼びかけ」では、きりん組の思い出を自信満々で発表。最後は、会場いっぱいの手拍子のなか、大好きな友だちと一緒に笑顔で退場しました。

本宮保育園

卒園式の第二部は、年長児として保育園生活最後の発表の場となります。

わかば保育園では、たいようぐみ15人が仲間と共に大きく成長した姿を披露しました。今年は鬼剣舞、豊年太鼓、竹踊りを発表しました。

「鬼剣舞」は、小さい頃からまねっこして憧れてきたものです。動きは口唱歌で覚え、扇子や刀の動きを仲間と共に合わせて力強く表現しました。また、お面は、張り子をして何日も何日もかけて作った、世界にたった一つのものです。

「豊年太鼓」は、今年米づくりを始めた時から〝いね、のび、そだて、いきろ〟と、願いを込めてきた子ども達。みんなで気持ちをあわせ、力強く太鼓の音を打ち鳴らしました。

「竹踊り」は、小さい頃からリズム運動をしてきたからこそできるものです。4拍子のリズムで、今年はちょうちょうのしなやかな表現もすてきでした。

歌の発表は「ぼくら太陽の子」。歌詞〝みんなでてをつなげばなんでもできる〟に、一人ひとりが仲間と共に過ごした思いを込め歌いました。

たくさんの励ましを頂き、一人ひとりが自信と誇りをもって巣立っていきました。

わかば保育園

宇宙学童クラブ

今年度も残すところあと数日。学童では長期のみの利用児童も含め、10名の6年生が卒所していきます。そして、また新しい仲間を迎えるための準備をしているところです。

冬休みには学童内ゲーム大会を行い、オセロ、チェス、将棋、百人一首に取り組みました。低学年のチェス人口が多く、子ども達の集中力にも驚かされました。

6年生は、社会体験旅行が盛岡市のクラスター発生により中止になっていましたが、2月に学童でのお泊り会を企画し、今年度作ることにしていた学童の看板の仕上げもすることにしました。

子どもたちは、学童に泊まるという初めての体験にドキドキワクワクしながら、慣れ親しんだ安心できる場所で仲間と過ごすことができ有意義な時間を過ごすことができました。

雪も解け暖かくなるのと同時に子ども達の運動量がぐんと増え、下の公園で猛ダッシュの日々です。

新年度も、子どもたちの元気な笑い声が響きわたる学童でありたいと思います。

チェスで真剣勝負

看板の仕上げ作業

住所：西松園３－１８－１２
☎：019-662-1113

保育をとりまく情勢

＊とんでもない！宿舎借上家賃補助金の減額認められないと行動

盛岡市は、保育士確保の一環として私立保育所で働く保育士に月額55,000円の家賃補助（保育所を運営する事業者に補助）を行っています。

１月28日、突然、市から「今年度の補助額を2020年４月に遡って52,000円に引き下げる」との通知が届きました。

既に、55,000円でスタートしており後戻りはできません。早速、わかば保育園保護者でもある三田村あみこ市議に相談。三田村市議が市財政部に事業の継続を要請。同時に福祉労組も担当課に撤回を申し入れました。

素早い取り組みの結果、市は今年度分については減額を撤回しましたが新年度からの引き下げは必至です。保育士確保が喫緊の課題であり、市は事業の主旨を貫いてほしいものです。

＊保育士のパート化

厚労省が「新子育てプラン」を発表。新プランは、現在各クラスに１名以上配置している常勤保育士を短時間保育士２名に代えてもよいという「保育士のパート化」を容認する内容です。

コロナ禍のもと、保育を含むケア労働への手厚い待遇改善が世論となっている時に、パート化は専門職としての保育士の仕事を一層おとしめるものです。

深刻な保育士不足は、待遇改善なしには改善されません。今こそ公定価格の引き上げで待遇改善をとの声を大きく拡げましょう。

＊保育士の処遇改善を求める署名へのご協力をお願いします。

全国保育団体連絡会が、保育士のパート化につながる規制緩和に反対し保育士の処遇改善を求める署名（用紙は各保育園に用意）に取り組んでいます。ご協力お願いします。

わかば会の動き

＊社会福祉法人わかば会が独自の慰労金を支給

２０２０年度第２回理事会（12月19日開催）では、わかば会独自に「新型コロナウイルス対策慰労金」の給付を決定。昨年１月から新型コロナウイルス感染症対策で職員には厳しい自粛要請が行われ、一人の感染者も出さず通常保育が行われてきました。この間の職員の協力に感謝とねぎらいを込めて慰労金（正規・臨時職員５万円・パート職員１万円）を支給しました。

コロナ対策で「密」回避のため　　版で仕切って会議進行）

その他、 2020年度第一次補正予算が承認されました。

＊ わらび座とウエブ研修

コロナ禍のもと法人研修が開催できずにいましたが１月22日に、秋田わらび座（講師）によるウエブ研修を実施。トラ舞・鬼剣舞・笛・太鼓の練習をしました。早速、子どもたちに披露しました。

＊職員を募集

保育士・看護師を募集しています。

待遇【大卒】200,700～209,500円（処遇改善手当を含む）

【短大卒】193,200～197,900円（同上）

問合わせ先　わかば保育園 019-661－3103（担当　山蔭）

Http:/www.wakaba-kai.or.jp

給食室　保育園で人気のおやつ　たこ焼き風

材料（１５個分）

- じゃがいも　300ｇ
- キャベツ　80ｇ
- 紅しょうが　6g
- 蒸しだこ　50ｇ
- ねぎ　15ｇ
- 青のり　適宜
- 小麦粉　70ｇ
- 片栗粉　25ｇ
- 塩　少々
- 揚げ油・ソース　適宜

作りかた

①じゃがいもの皮をむき、茹でてつぶす。（冷ましておく）

②キャベツ、紅しょうが、ねぎ、蒸しだこはみじん切りにする。

③①に②と片栗粉、小麦粉、塩をしっかり混ぜる。

④③を一口大に丸めて油で揚げる。

⑤④に青のりとソースをかける。

あとがき

東日本大震災から10年目となった3月11日、保育園でも10年前の大地震を語り伝える日となりました。

あの日と同じように2時46分に非常ベルがけたたましく鳴り、昼寝から覚めやらぬ子どもたちが緊張した面持ちでホールに集まってきました。ふざけたり騒いだりする子は一人もいませんでした。

園長先生は、小雪が舞う寒かったあの日、パジャマ姿で園庭に避難したこと。停電で暖がとれず余震が続く中、お母さんたちのお迎えまでの奮闘。沿岸では大津波でたくさんのいのちが奪われたこと等々話しました。

10年目の3月11日はあらためて子どもたちに、いのちの大切さを伝える機会になりました。

キャンドルを囲み非常食のおやつを‘いただきます,

シリーズ　わかばの保育③

②支援児（障がい児）保育

わかば保育園は、障がいをもつ多くの子どもたちを受け入れてきました。「ダウン症」「重度の自閉症」「プラダウイリ症候群」「水頭症」「筋ジストロフィー」「脳性麻痺」「経口栄養児」などです。他の保育園で受け入れてもらえない子らの保護者の願いに応えて受け入れてきました。

支援児保育を開始した頃は、担当の保育士がマンツーマンで対応しましたが「全体の保育が後手にまわる」「健常児と一緒の散歩では支援児に無理を強いてしまう」など多くの悩みを抱えての保育でした。

また、支援児保育の仕方など職員間の共通理解が少なく担当保育士の責任は重く孤軍奮闘の状態でした。

類似の症状をもつ支援児が複数いる場合は「重ね合い保育」といって基本となるクラスでの活動と同時に支援児同士の遊びの時間を設けて保育を行いました。

しかし、「自閉児」「自閉的傾向児」が多い年には重ね合わせが難しく、もっぱら担当保育士に任せっきりになり、一層、保育士が孤立するなどの課題を抱えていました。

1985年頃から岩手大学のK先生による年2回の巡回指導が始まりました。K先生の子どもに対する「大いなる慈愛」と「子どもを尊重して寄り添う」姿勢に、職員は励まされ多くのことを学びました。

また、岩手大学の支援児教育を専門とする先生たちが、学生の卒業研究の一環としてわかば保育園を訪れました。支援児保育における発達検査、分析、そしてその結果について一緒に学習する中で有用な成果を得ることができました。

当時「ノーマライゼ―ション」「支援児のインクルージョン」という定義はまだ確立されておらず、とにかく「健常児の中で一緒に育てていこう」との考え方が主流でした。

岩手大学のA先生が、「わかば保育園が支援児に特別なことをしているわけではないのに、どうして支援児が『大きな育ち方』をしているのか」と驚き、話していたのを思い出します。

長年にわたる支援児保育の実践は、「担当者任せにせず職員みんなで育てる」「どの子も同じ道すじを通って育つ」ことを職員の共通認識とし、暖かい目で育て合うとの意識の醸成こそが大事であることを学びました。

「わかばの保育」より抜粋

れんらく先

わかば保育園	西松園３－１９－６	☎６６１－３１０３
北松園風の子保育園	北松園４－１－５	☎６６３－２２１７
本宮保育園	本宮４－３８－１０	☎６３６－１４４６
うえだ 保育園	高松１－９－４３	☎６６１－１２３４